

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800528		
法人名	社会福祉法人 三井福祉会		
事業所名	ナイスケア「榎の木」		
所在地	山梨県甲斐市長塚157-3		
自己評価作成日	令和 4年 9月 9日	評価結果市町村受理日	令和 3年 2月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 10月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が穏やかな毎日を過ごせるよう、施設でありながら自宅を思わせるような雰囲気となっており、常に清潔な環境を心掛けています。コロナ禍で外出やご家族様の面会が制限されるなか、利用者様が施設内で楽しく、生き生きとした生活が送れるよう、食事作りイベントをはじめ、運動会や庭でのバーベキュー等、様々なイベントを実施しております。
介護職員全員が女性で、勤続年数平均8、2年と職員の定着率が高い事業所です。また、事業所全体で職員のスキルアップを推進しており、介護職員17名のうち10名が介護福祉士の資格保持者です。来年度、2名の職員が新たに介護福祉士国家試験に臨む為、勉強に励んでいます。

◎利用者やご家族の殆どが看取りを希望されていることから、特に看取りになった状態から利用者が罹患しがちな褥瘡や様々な疾患、怪我によって体を傷めないよう綺麗な状態でご家族に返して差し上げることを念頭に、利用者の心身の状態に神経を注いで支援されている。◎勤続年数の長い職員が多数いることで、利用者のもとより家族の安心につながっている。◎理事長の方針で職員は女性に限定している。このことは入居者である男性が、日常生活の中で男性としてできる役割を担ってくれている側面があり、女性だけの職員集団であるとするデメリットは感じられないとのことである。また、職員は各世代にわたり勤務しており、お互いに刺激を受けながら切磋琢磨されている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「榎の木」

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関、各ユニットに掲示している。理念以外で各利用者に応じた年間目標を掲げ、職員で共有しサービス向上に努めている。利用者のレベルに応じての個別年間目標を掲げている。	事業所の理念は玄関、各ユニットに掲示してある。利用者が安心して生活できる環境と質の高いサービスを提供できるよう職員会議等でディスカッションを行い、実践に繋げている。	理念は日々の業務の中で意識から離れていかないように、月に1回の会議の場で確認し、振り返りを実施している。また、法人の各事業所では、幹部による月1回の会議を設けて理念の共有を図っている。ただコロナ禍にあってはメールや書面での確認・共有の状況である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設隣のドラッグストアが閉店し、馴染みの店員との交流は途絶えてしまった。自治会には加入しているが、コロナ禍の為、自治会のイベントも中止。また、地域住民との交流はできなかった。県内のコロナ感染状況に応じて、運営推進会議が開催される時は、地域住民メンバーと関わる事ができている。	コロナ禍で地域との交流の機会は減っている。運営推進会議にて、状況報告や、地域活動についての情報交換を行い、繋がり継続に努めている。	コロナ禍以前は自治会のイベント等に参加していたが、現在はあまり交流が持たれていない。運営推進会議には地域から4名の方が参加しており、事業所の情報を地域に持ち寄ってもらう。特に事業所が備えているAEDについては地域の方に積極的な活用を働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、地域住民代表メンバーより、認知症患者への対応や工夫等の相談を受け、対応方法等、助言した会があった。	運営推進会議の際、認知症についての施設での実践を説明している。委員より身体レベル低下の方の歩行介助を指導して欲しいとの要望があった時に、実技等を踏まえながら、認知症利用者との関わり方を説明した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	県内の感染状況に応じて、開催時にはソーシャルディスタンス、換気対策を行い実施している。運営推進会議の際はインシデント報告、事故再発についての取り組み等報告を行い、委員より出たアイデアを反映させ、結果についての報告を行っている。	県内の感染状況に応じて、開催時にはソーシャルディスタンス、換気対策を行い実施している。運営推進会議の際はインシデント報告、事故再発についての取り組み等報告を行い、委員より出たアイデアを反映させ、結果についての報告を行っている。	コロナ感染の状況に応じて書面での情報共有を行ったり、感染レベルが下がった際は喚起等に留意しながら対面での会議を行っている。運営推進会議で話された内容について、出席されていない家族にも議事録を送付して共有を図っている。また、面会制限されていることから利用者の写真等を2か月に1回家族に送るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに甲斐市役所長寿推進課課長が参加しており、日常的なサービスについてや運営推進会議内で出た疑問を、その都度相談し、意見をもらう等、協力関係を築いている。今年に入り、看取り利用者が続き、居室空室が続いた為、市へ報告、相談を行った。	運営推進会議メンバーに甲斐市役所長寿推進課課長が参加しており、日常的なサービスについてや運営推進会議内で出た疑問を、その都度相談し、意見をもらう等、協力関係を築いている。今年に入り、看取り利用者が続き、居室空室が続いた為、市へ報告、相談を行った。	甲斐市役所長寿推進課課長には、市からのお知らせ等の情報提供をしていただく。市の担当課は事業所からの要望については迅速に対応してもらえ、協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、職員への周知と月に1回の自己チェックの提出を行い、意識の向上に取り組んでおり、また成果も出ている。	月に1回自己チェック表を配布し、自身のケアの振り返りを行っている。2ヶ月に1回の身体拘束委員会会議を開催し、その都度、問題点や課題を見直し、改善に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月に1回の自己チェックにおいて、表出してくる身体拘束にはスピーチログが報告されている。対策として、管理者による個別の聞き取りや業務の改善に取り組んでいる。ベッド柵は、横はもとより足側も外すことで、利用者を見守る意識と注意力を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、職員が学ぶ機会を設けている。また、身体拘束委員会を中心に利用者にも不適切な対応がないか話し合いを行い、防止に努めている。	定期的高齢者虐待についての施設内研修を行っている。更衣時、入浴時に身体チェックを行い、防止に努めている。職員の利用者に対する不適切と思われるような声掛けには職員間で注意し合える関係作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修会を実施している。また、利用者1名が成年後見制度を利用している為、職員の理解も徐々に深まっている。	施設内で研修会を実施している。また、利用者1名が成年後見制度を利用しているが主に管理者が関係者と関わっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は管理者が行っているが、他の職員も十分な説明ができるよう研修を行った。日頃より、ご家族や利用者とのコミュニケーションを図り、不安等を聞く体制を取っている。	契約の締結は管理者が行っているが、他の職員も十分な説明ができるよう研修を行った。日頃より、ご家族や利用者とのコミュニケーションを図り、不安等を聞く体制を取っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「榎の木」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ご家族代表の方は会議の際に要望を話してくれる場合があり、地域代表や甲斐市役所職員へ表せる機会はある。その他ご家族は担当職員や管理者に話すのみとなっている。	運営推進会議ご家族代表の方は会議の際に要望を話してくれる場合があり、地域代表や甲斐市役所職員へ表せる機会はある。その他ご家族は担当職員や管理者に話すのみとなっている。	家族によるアンケート設問の、職員は話を聞いてくれるかに対して、全員が、よく聞いてくれるまたはまあ聞いてくれると答えた。家族の話を聞く体制と習慣ができていいる。また、事業所にも訪ねていきやすいと答えた方が大半であり、家族と事業所との良好な関係が伺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より、現状の避難経路の確保について不安があるとの相談を受け、早急に職員駐車場の整備が行われた。管理者は随時、職員の意見を聞いてくれ、反映してくれている。	利用者の重度化に応じ、職員の配置の変更や、人員補充を行ってきている。その時の状況に応じて、柔軟に業務の移行にも対応してくれている。	労働環境では、利用者の重度化に伴い支援の負担が大きくなることから、体制の補充を行う。法人として障害の事業所も運営しているが、職員は働きたい事業所で働きたいとする思いを大切に異動はない。働きやすい労働環境が勤続年数の長さを裏付けていると思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時で速やかに退社できるよう業務の見直しや業務の移行を随時、行ってきている。勤務希望や勤務変更にも柔軟に対応してくれている。シフト作成時、適宜有休を入れてきている。	重度利用者増加等、状況に応じて職員配置増員の配慮、職員の業務の時間帯を考慮してくれている。シフト作成時、適宜有休を入れてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、外部研修の機会はないが、月に1回施設内研修を行い、職員のスキルアップに努めている。資格取得を目指す職員にはシフトの調整を行い、支援してくれている。	コロナの影響で外部研修には参加できていないが、施設内研修を月に1回、テーマを決め学習する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、外部研修には参加できていない。新規利用者入居相談の際、他事業所職員の見学があるなど関りを持っている。	コロナ禍により、外部研修には参加できていない。新規利用者入居相談の際、他事業所職員の見学があるなど関りを持っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報提供書を職員で共有している。入居後に職員間で気づいた事を書き出し、共有している。担当職員を中心に利用者の不安を傾聴して信頼関係を構築している。	管理者がご家族からの相談や担当CMからの情報をもとに聞き取りをまとめ、職員に周知してくれる。また、ご家族との協力体制を築き、利用者本人が不安なく施設生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族の不安な事を聞き出している。要望については、施設で出来る事と出来ない事ははっきり伝え、ご家族の要望に近づけるアイデアを提案したり、ご家族の協力を得る働きかけを行いながら、関係作りに努めている。	入居相談時にご家族の不安な事や要望を管理者が聞き取りを行っている。入居後はユニットリーダー、担当職員が中心となり、日常の様子を報告しながら、ケアについての意見等訊ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が面接時に、本人やご家族と面談を行い、聞き取りや相談、本人やご家族の意向を確認。ご家族との協力体制を図り、本人が不安なく施設生活が送れるよう努めている。まとめた意向等は職員に周知している。	管理者が面接時に、本人やご家族と面談を行い、聞き取りや相談、本人やご家族の意向を確認。ご家族との協力体制を図り、本人が不安なく施設生活が送れるよう努めている。まとめた意向等は職員に周知している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事を見極め、日常の清掃や洗濯、食事作りを職員と一緒にしている。積極的に職員の仕事の手伝いに参加してくれる利用者がある。職員の一方向的押し付けは行っていない。	利用者の特性やADLにより、洗濯たたみや掃除を職員と一緒にしている。本人の意向を重視し、職員の押し付けにならないよう注意している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「榎の木」

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限がある為、主に電話で日常の様子等報告している。職員がご家族に連絡をする時は、利用者と話をして頂いたり、遠方のご家族にはビデオで撮影したものをメールで送るなどし、近況を報告しながら共に支え合えるよう努めている。利用者の状態変化に応じ、新たに導入する物などは常に相談、共に考えている。	面会制限がある為、主に電話で日常の様子等報告している。職員がご家族に連絡をする時は、利用者と話をして頂いたり、遠方のご家族にはビデオで撮影したものをメールで送るなどし、近況を報告しながら共に支え合えるよう努めている。利用者の状態変化に応じ、新たに導入する物などは常に相談、共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設隣のドラッグストアが閉店し、馴染みの店員との関りは途絶えてしまった。理髪は今まで通り、馴染みの美容師が感染予防を行い、来所している。手紙やはがきが届く利用者は職員と一緒に返事を書く支援を行っている。	コロナ禍の為、面会制限がある。親しい友人からの手紙には、職員が傍について返事を書き、郵送している。	入居前からの人間関係や馴染みの場所は、コロナ禍による制限やなじみの店の閉店により途絶えた状況である。ただ理髪については地域の馴染みの美容師が来所しており、馴染みの関係が形成されている。お彼岸には家族とお墓参りに行かれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のレベルや相性等を考慮し、共有スペースの席を決めているが、レクリエーション時や食事時間以外では好きな席を使っている。難聴の利用者との会話では職員が橋渡しを行うなど、関りを大切にしている。	利用者同士の相性や、介助を要する利用者のバランスを考慮した、配席になっている。レクリエーション時には、全利用者が関りを持って職員が間に入り、橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了した、ご家族からご友人や親戚の相談を受け、入居に至るケースもある。	在宅復帰をされた利用者ご家族から、自宅に戻った後の生活について助言を行った。またご家族からのご厚意で使わなくなった衣類等を寄付して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が居室で休みたい等の訴えが聞かれた場合でも、業務の手を止め、利用者優先の対応に努めている。意思の伝達が困難な利用者のノンバーバルサインを見逃さず、2語文等で確認を取って対応している。毎年、プランターでの野菜作りを楽しみにしている利用者の意向で今年もプチトマトを栽培、収穫を楽しまれた。	普段からコミュニケーションを図り、利用者の意向を聞き出すよう努めている。意向や思いを伝えられない利用者の場合、ノンバーバルサインを見逃さず、2語文等で確認を取り、対応している。	管理者は職員が利用者の思いに応えるよう、業務の手を止めることを是とする意識にやっとなどり着いたと述べているように、様々な工夫を試みて利用者の意向の把握に努めている。職員の勤続年数の長さからくる利用者との関係性から全ての職員が利用者の表情や仕草から思いや意向をくみ取ることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報、本人との会話で得た情報を職員間で共有し、可能な限り、これまでの生活習慣を継続できるよう努めている。	管理者が得た情報をまとめ、全職員に周知している。また、入居後、ご家族から新たに得た情報等も職員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族との面会や、外出機会が減ったことにより、心身状態のレベル低下が見られる。利用者の残存機能や有する力を見極め、すぐに手を出さず、できる事の継続を続け、できない部分のサポートを心掛けている。	個別記録、引継ぎ等を通し、情報の共有を行っている。心身の状態に変化や異常が見られた場合、管理者に報告を行い、必要に応じて主治医に報告、指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態変化は管理者へ報告。モニタリングを行い原因を究明している。主治医の意見やご家族、ご本人の意向を踏まえ、プランに反映している。	利用者の発言や希望を確認。併せて主治医や訪問看護師の助言等もプランに反映している。	介護計画は関係職員の中で情報共有され作成されている。なお、介護計画の変更は看取りの際に行われ、週に1回のペースで関係者による会議を開催して、状況に即したプランのもとで支援がなされている。また、退院後や認知レベルの低下からくるプランの変更等、関係者の助言の中で支援にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、工夫等、個別記録に記入をしている。記録の書き方について施設内研修で行っているが、学んだ事が活かされていない職員もいる。変化する状態等、引継ぎ等を通じて、情報の共有を行っている。	個別記録や引継ぎを活用し、職員間での情報を共有するとともに、成功した介助方法等、他職員に提案をしている。記録の重要性について、施設内研修にて学習が行われた。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「榎の木」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の個々の意向に対応しようと努めるが、全ては行えていない。内科往診対象外の専門的医療機関の受診対応はご家族対応となるが、ご家族の就労等により、施設で行う事がある。	通院は原則、ご家族対応となっているが、都合が合わない時や就労の場合、施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望や不具合が生じて、訪問歯科診療を依頼している。定期的に訪問理髪を依頼している。	利用者の希望や不具合が生じて、訪問歯科診療を依頼している。定期的に訪問理髪を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診を継続していた利用者も、ご家族の多忙やコロナによる影響で、施設往診医への移行を決めた利用者もいる。ご家族受診対応の場合、利用者の状況について、医師へ書面で報告を行い、連携を図っている。	レベルの低下により、受診困難な利用者や入居前からかかりつけ医がいない利用者の為、現在の西ユニット利用者全員、往診医となっている。	入居前からのかかりつけ医を利用していた利用者は、コロナの影響で通院が叶わなくなり、8月を最後に往診医に変更されている。かかりつけ医の変更については利用者や家族が不安にならないよう、医療機関の間で引継ぎがなされ、安心を担保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師配置はされていない。看取り期に入った利用者のご家族、主治医、施設と話し合いを行い、訪問看護を導入している。MCS活用し、主治医、施設、訪問看護師が情報を共有できている。	施設に看護師配置はされていない。看取り期に入った利用者のご家族、主治医、施設と話し合いを行い、訪問看護を導入している。MCS活用し、主治医、施設、訪問看護師が情報を共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、管理者が施設での生活状況、内服内容等の報告を行っている。入院中の面会はできないが、医療連携室相談員と情報を共有している。	入院時、管理者が施設での生活状況、内服内容等の報告を行っている。入院中の面会はできないが、医療連携室相談員と情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り期に入ったと医師の診断が下りた時点で、担当者会議を開催し、ご家族、本人の意向を確認し、ユニットチームで看取り期のケアについて情報を共有し、ケアに努めている。担当者会議は看取り期になると、複数回行われる。	看取り期に入ったと医師の診断が下りた時点で、担当者会議を開催し、ご家族、本人の意向を確認し、ユニットチームで看取り期のケアについて情報を共有し、ケアに努めている。担当者会議は看取り期になると、複数回行われる。	看取りに入る前の段階で利用者・家族とは看取りケアのあり方について、インフォームドコンセントを得て書面で確認している。看取り期では家族がいつでも面会ができるように配慮している。また、希望する家族には利用者への付き添いも叶えている。最期の看取りに立ち会う家族もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で、急変時、事故発生時の応急手当の訓練を実施している。入居時、ご家族に急変時の延命についての意向確認を行い、書類にサインをもらっている。	コロナの為、AEDの外部講師を招いての研修会は実施できなかった。施設内研修では、止血法や日用品を使った応急手当の研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に災害時の避難訓練を定期的に実施している。訓練を重ね、その都度、気づいた点を修正し、災害時のBCP作成中。運営推進会議を通じて、BCPの説明を行いながら、緊急時の応援を依頼している。	コロナの影響により、地域との防災訓練に参加する事ができなかった。今年度より、BCP作成の為、定期的に会議を行い、訓練、見直しを重ね、災害時においての業務継続計画の基盤の整備を始めている。	事業所の立地場所はハザードマップの対象区域からは外れている。災害時には地域の中に避難所が設置されている。しかし、避難所までは距離があるため、一時的に事業所近くの理事長が所有する駐車場に避難して、体制が整ったところで地域の避難所へ避難するようにしている。避難訓練の一環として招集訓練も実施して方が一の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心、自尊心を傷つけないよう声掛けにも配慮している。入室の際のノックの徹底やフロアにいる利用者に居室訪室の許可を得ている。トイレ誘導時の移乗介助後、その場を離れる際に、排泄後、トイレ内に設置した鈴で職員を呼ぶよう依頼し、排泄中はトイレ外で待機している。	利用者の性格や特性を把握し、その人に応じた声掛けや誘導について職員間で共有し、対応している。トイレ誘導時の声掛け、介助に対しても羞恥心に配慮した声掛けを実施している。トイレ内に鈴を設置し、排泄後に職員に知らせてもらうようにしている。	個人の尊厳とプライバシーの面では排泄時のパットの交換等において、羞恥心に配慮した対応に心がけている。利用者の中には機能低下の影響で他人の部屋に入ってしまうという事例があるが、本人の了解のもとで居室に鍵をかけプライバシーの保護に努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「榎の木」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴準備では、本人に衣類を選んで頂いている。利用者によっては二択で選択や物を見てから自己決定ができるように働きかけている。お茶の時間は利用者に飲みたい物を確認し、提供している。	自分の思いを表す事のできない利用者に対しては、表情を汲み取る、または2語文を活用し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日常生活全般において、本人のペースに応じて臨機応変に対応している。レクリエーションの声掛けは行いが、参加するかは本人に任せている。レクの内容がそぐわない場合、無理強いを行わないようにしている。日常的な会話で本人の意向を訊ねるような声掛けを心掛けている。	本人の生活習慣を尊重し、利用者によって就寝時間や起床時間、食事時間も本人に任せている。施設でありがたいながら自宅に居るように生活習慣を継続している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問カットを依頼し、希望があれば白髪染めの支援を行っている。男性利用者の髭剃りでは剃り残しの確認を行い、介助している。	定期的な訪問カットを依頼している。男性利用者の髭剃りでは剃り残しの確認を行い、介助している。衣類を準備する時、自己決定が困難な利用者の場合、二択の中から選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューボードをキッチン横に掲示し、会話作りに活かしている。野菜の皮むきや食後のお盆拭き等、簡単な家事の参加を促している。減塩食、糖尿病食指示の利用者に対しては、別調理で対応している。	刻み食提供の利用者には、配膳時メニューの説明を行っている。簡単な調理や後片付け等にも参加している。	利用者ご自身のできる役割を担いながら食事づくりに関わっている。食事は献立に沿って事業所内で調理されている。減塩食や糖尿病食といった特別食に対しては、見た目には違いがないよう利用者に対応されたものになっている。菜園で収穫したトマト等も食卓に並べて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が困難な利用者の場合、比較的、朝食を多く摂取出来る為、本人のペースに応じて、食事提供量を調整している。食事やお茶の時間に捉われず、こまめに水分を提供し、水分摂取に努めている。全利用者の毎食後の残食、飲水量の確認を行っている。毎月の体重測定を実施し、主治医に報告。	全利用者の残食、飲水量チェックを行っている。補助食器等を用いながら、自力摂取を促している。職員はできない所だけ介入するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは利用者も習慣になっている。仕上げ磨き時に、義歯や残歯の不具合を確認し、必要に応じて訪問歯科診療を依頼している。夕食後は義歯を預かり、消毒支援を行っている。	毎食後の口腔ケアを実施。利用者に応じた歯ブラシ、舌ブラシを使用している。磨き残しの確認の為、仕上げ磨きを行い、口腔状態の確認も併せて行っている。状態に応じて、訪問歯科診療を依頼している。夕食後、義歯預かり、消毒を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為、一人一人の生活パターンや最終排尿を把握し、早めのトイレ誘導を実施。また、排泄の失敗を減らす為の運動も取り入れている。声掛けに拒否がある利用者の場合、食前の手洗い前や行動時にさりげなくトイレ誘導を行っている。退院した利用者に対し、一度おむつ外しを挑戦している。	夜間、オムツ使用の利用者も、日中は下着とパットを使用し、トイレ誘導を行っている。トイレでの排泄成功を目指し、パット、リハパン等の消費を抑えるよう努めている。利用者の最終排尿の申し送りを行い、こまめにトイレ誘導を実施している。	排泄についてはこまめな声掛けや運動を行うことで、失敗を減らす取り組みに尽力している。新規の入居者に対してはリハパン外しから、退院後の利用者に対してはおむつ外しから始めている。パットやリハパン等の利用者費用負担を考慮して、できるだけ使用回数を減らす取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	R-1の個人購入や、メニューに乳酸菌飲料を取り入れている。主治医から、軟便剤や緩下剤が処方されている利用者もいる。飲水量をチェックし、こまめに水分摂取ができるよう声掛け、介助を行っている。	排便チェック表を活用し、確認を行っている。医師より軟便剤や緩下剤が処方されている場合は、便の形状等を見て、内服調整を図っている。水分摂取量の少ない利用者に対し、本人の好みの飲み物を提供し、飲水量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	2人体制入浴利用者が多数の為、シフト作成後、ある程度の入浴予定は立てているが、本人の希望も取り入れ、随時調整や変更を柔軟に行っている。体調不良時には無理せず、陰部洗浄や清拭と形態を変えて、清潔保持に努めている。	2人体制入浴利用者が多数の為、シフト作成後、ある程度の入浴予定は立てているが、本人の希望も取り入れ、随時調整や変更を柔軟に行っている。体調不良時には無理せず、陰部洗浄や清拭と形態を変えて、清潔保持に努めている。	入浴設備は洗い場を少しだけ広くしたユニットバスを設置している。職員2人体制が必須な利用者が多く、シフトを組んでの入浴支援が余儀なくされている。しかし利用者の希望を取り入れた柔軟な支援も行われている。入浴を好まない方には言葉かけや言葉をかける職員を変えたり等、様々な工夫を凝らして入浴に誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している利用者は居室で過ごす等、自由に休息を取る事ができている。介助の必要な利用者や発語のない利用者は生活リズムに応じて、休息時間を設けている。寝具類の清潔、シワの確認を行っている。訪室時の空調確認し、調整を行っている。寝返りの打てない利用者に対しては適宜、体位交換を行っている。	自立している利用者は居室で過ごす等、自由に休息を取る事ができている。介助の必要な利用者や発語のない利用者は生活リズムに応じて、休息時間を設けている。寝具類の清潔、シワの確認を行っている。訪室時の空調確認し、調整を行っている。寝返りの打てない利用者に対しては適宜、体位交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「榎の木」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットに処方された服薬説明書のコピーをファイル作成し、職員が利用者の内服薬を確認できるようにしている。服薬支援、症状変化等の把握に努めている。	内服説明書は個別ケースにファイルされているが、内容を把握している職員は少ない。利用者のレベルに応じて、粉碎処方を主治医に依頼している。		
		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のレベルに応じて、生活に必要な家事等を職員と一緒にやっている。写経、カレンダー作り等、各利用者の特性を生かした支援を行っている。外出は出来ていないが、中庭に出たり気分転換に努めている。外出が困難な今は施設内で楽しめるイベントを行っている。	利用者のレベルに応じて、生活に必要な家事等を職員と一緒にやっている。フロアーの壁紙の飾り作りの参加や中庭での外気浴で気分転換を図っている。外出が困難な今は施設内で運動会やお楽しみ会、食事作り、お菓子作り等のイベントを回数を増やし、行っている。		
	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により外出イベントは見合わせをしている。施設の中庭やテラスに出て、外気にあたるようにしている。可能な限り、個別でのドライブや散歩支援を行っている。今年度も中庭でのバーベキューを実施した。	コロナ禍により外出イベントは見合わせをしている。施設の中庭やテラスに出て、外気にあたるようにしている。可能な限り、個別でのドライブや散歩支援を行っている。今年度も中庭でのバーベキューを実施した。	コロナ禍により、それ以前に実施していた外出ができていない。よって、事業所の裏庭や中庭のテラスに出ての外出に至っている。ドライブについても車内が密になるため実施できていない。また、個別のドライブについては職員体制に余裕のある場合に実施している。	
		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお小遣いを管理している。希望のある利用者は自身でお金を所持している。施設隣のドラッグストアが閉店した為、希望購入品がある利用者の買い物は職員が代行で行っている。	お金を管理できる利用者はいないが、施設で管理を行っている。本人の希望があれば職員が代行で買い物に行っている。		
		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話または職員がご家族に電話する場合、職員の支援によりご家族との会話を楽しんでもらっている。手紙の返信を希望される利用者は、職員がご家族に連絡する場合は、短時間でも会話ができるようにしている。	家族や友人から、贈り物が届いた時は、手紙や電話でお礼が伝えられるよう支援している。本人の希望があればいつでも電話ができるよう支援している。また、職員がご家族に連絡する場合、短時間でも会話ができるよう電話を取り次いでいる。		
	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や調光管理を行い、快適に過ごせるよう配慮している。常に清潔を心掛けている。月に一度、担当職員がフロアーの壁紙作成を行い、季節感を感じて頂けるよう配慮している。フロアーのテレビは利用者がチャンネル変更できるようリモコンをテーブルに置いておき、音量が大き過ぎる場合のみ音量調整をしている。	フロアーの壁の装飾を季節感に配慮しながら、作成している。聴き馴染みのある懐メロ音楽をかけて、ゆったりと過ごしている利用者もいる。空調のかんり、定期的な換気対策も行っている。	複数の利用者が共有の空間で過ごす場合、様々なトラブルが予想される。事業所の職員は利用者一人ひとりの性格や特性を把握し、場面場面での確かな対応をすることで、居心地の良い空間が保たれている。	
		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーでの配席は介助を要する利用者とのバランスを考慮し、配置されているが、自立している利用者は自由に動く事ができている。ソファでくつろいだり、気の合う利用者と会話を楽しまれている。	フロアーでの配席は介助を要する利用者とのバランスを考慮し、配置されているが、自立している利用者は自由に動く事ができている。ソファでくつろいだり、気の合う利用者と会話を楽しまれている。		
	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族の協力を得て、自宅で使用していた物を搬入して頂いている。入居に伴い、新しく購入するのではなく本人にとって馴染みのある物を持参して頂けるよう依頼している。仏壇を持参している利用者もいる。年末には業者から頂いたカレンダーの中から、好きな物を選ぶ事が年末の恒例となっている。	入居の際、新しく購入するのではなく、自宅で使用していたものを搬入して頂き、極力、自宅に近い雰囲気でご過ごせるよう協力して頂いている。居室にはご家族の写真を置いたり、居心地良い空間を提供している。	居室には使い慣れた家具や先立たれた親族の位牌や遺影、仏壇の置かれた居室がみられる。手先の器用な方は自らが制作した作品を室内に飾ったりする等、生活感を感じさせる雰囲気になっている。	
		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに表札を掲げている。氏名より部屋番号が良いという利用者には部屋番号で表示している。トイレの場所が混同する利用者には、ドアを開けてからトイレまでを矢印表記で示す事で自力で行く事ができている。施設内には手すりが設置されている為、見守りで歩行が可能になっている利用者もいる。	必要に応じて、施設内に設置されている手すりを使用していただいている。利用者のレベルを考慮し、ベッドレールをL字バーへの変更を提案し、残存能力の維持に努めている。		